

メンテナンスマニュアルに関する実証項目の検討について

＜検討の目的＞

技術が有する性能を最大限に発揮させ、長期的に安定して稼働させるためには、適切な取扱説明書及び維持管理要領書（以下、「マニュアル」という。）が不可欠である。

これまでのシンポジウムやWGにおいても、マニュアルの必要性や内容の充実化を求める意見が出されてきた。

ここでは、適切なマニュアル作りを推進することを目的として、マニュアル実証項目を再検討する。

現在のマニュアルに関する実証項目について、実証試験要領第6版 4. 測定方法 (2) 維持管理性能では、以下のように記述されている。

実証機関は、実証申請者が提出する日常管理者用の取扱説明書及び専門管理者用の維持管理要領書に基づき運転・管理を行い、取扱説明書及び維持管理要領書の使いやすさや記載内容、項目の正確性を実証する。盛り込むべき項目として想定されるものを表5に示す。調査頻度は取扱説明書及び維持管理要領書に記載されている内容によって異なるので、実証機関は、実証申請者と協議し、適切な頻度及び体制で実施する。

また、日常及び専門管理のいずれも下記項目に沿って維持管理チェックシートを作成し、記録する。なお、発生物の搬出等、試験期間内に作業の必要性が生じなかった場合は、現場及び図面などにより作業状況を予測し、留意点を報告書に記載する。

表5：維持管理性能実証項目の測定方法と頻度

No	分類項目	実証項目	記録時期	頻度
1	日常管理全般	作業内容、 所要人員、 所要時間、 作業性等	作業発生時	取扱説明書と維持管理要領書に従う
2	専門管理全般		作業発生時	
3	開山・閉山対応※1		開山時と閉山時	開山時・閉山時
4	発生物の搬出及び処理・処分		発生物の搬出時	搬出時
5	トラブル対応		トラブル発生時	発生時
6	信頼性	読みやすさ、 理解しやすさ、 正確性等	試験終了時	試験終了時

<前回会合での要点>

- 本試験要領にある実証項目を充実させ、ユーザーにマニュアルに関する適切な情報を提供。
- 実証済技術のマニュアルの構成や記載内容を把握し、実証項目を検討する。
- 今年度の実証機関と連携しながら実証項目の検討を進める。

<各メーカーにおける維持管理要領の現状>

- (別紙、各申請者の維持管理要領の記載状況 WG 限り)

試験要領中への追記案

記入者	実証機関名
担当作業内容	日常点検、管理
使用したマニュアル名	〇〇マニュアル

マニュアルの信頼性(5段階表記(低1~高5))

	読みやすさ	理解しやすさ	正確性	情報量	コメント
(例)	3	2	5	1	例)より詳しい情報の記載が望まれる
日常管理について					
専門管理について					
開山・閉山対応について					
発生物の搬出及び処理・処分について					
トラブル対応について					
その他					